白い花弁の流れる先　37

川鍋さく

曼殊沙華

気がつけば
曼殊沙華の花たちが赤々と群れ

気がつけば
曼殊沙華の花たちが枯れ干からびている

その様を
仰向けに転がった蜘蛛の死骸たちのようだと
毎年思う

高架下の小さな公園の草陰で
バッタが翅を広げようとしている

乾いた土しかない畑から
翼の大きな鳥が飛び立つ

台風が来るのだという
窓の外は一面セピア色になって
静かで

どの街にも
曼殊沙華が枯れている通りがある

＊＊ 川鍋のぽつり独り言 ＊＊

梅雨明けはまだかなぁ。
もう真夏の暑さだから、早く蝉のうるさい声が聞きたいな。